

予算額

1,107,988 円

地域課題解決に向けた取組

取組の名称	スポーツ熟議				
趣旨・目的	昨今の子供達への「体力低下」「スポーツ離れ」に対する施策としての学校体育への小学校体育活動コーディネーターの派遣におけるより質の高い授業を実施するための問題提起、施策やアイデアを学校・地域・保護者などの観点から課題解決に向けての熟慮と討議を行う。				
内容	<p>小学校体育活動コーディネーターだけでなく、小学校教職員や保護者、幼児体育指導者や体育指導を学んでいる専門学生、看護師など様々な分野から参加者が集まり議論を重ねた。</p> <p>1回目は、①実際に体育授業に参加したコーディネーターから問題点や課題抽出②様々な分野からの意見やアイデアを3グループに分かれて出し合った③出し合った意見やアイデアなどをまとめた。</p> <p>2回目は3グループに分かれ①1回目にまとめた意見やアイデアから重要であろうテーマをピックアップし②更に掘り下げて、また視野を広げて議論を重ね③3グループからの意見を合わせ、課題解決に向けて意見をまとめた。</p>				
対象者	小学校体育コーディネーター、地域関係者、学校関係者	参加人数/回	18名	実施回数	2回
効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 考えや意見が偏らないように、様々な分野からの参加者を募った。 グループワークでも実際に活動した小学校体育活動コーディネーターを均等に配置し、現場の意見と、外部からの意見を取り入れる事ができるように工夫をした。 				
成果	<ul style="list-style-type: none"> 実際に体育活動コーディネーターとして派遣された指導者からは、実施までの準備段階での課題や、実際に現場での課題、また次年度に向けての新たな取組をどうすれば良いかなど様々な意見を出し合い討議することができた。 小学校体育活動コーディネーターだけでなく、小学校教職員や保護者、幼児体育指導者や体育指導を学んでいる専門学生、看護師まで、幅広い分野からの考えや意見を出し合う事ができた。 色々な課題が出た中、1つひとつに意見を出し合い十分な討議をする事はできなかったが、幼児体育指導者からの幼稚園・保育園での授業の進め方や先生との関係作り、また指導案への考え方など、小学校の授業に取り入れる事のできる内容もあり、とても有意義な時間となった。 参加者それぞれが違った分野の意見を聞くことができ、考えの幅が広がったこと、また更に、参加の中には地域に目を向けた考えがなかったが、この熟議をきっかけに地域に目を向けようと視野が広がったことも大きな成果である。 スポーツコミュニティを形成していく上で、様々なイベントの活用方法では、各それぞれが地域で実際に行っているイベントもあり、生の情報交換ができた事が、参加者にとって大きな財産となった。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 今回挙げた課題を十分な討議をする事ができなかった。小学校体育活動コーディネーターの活用方法を更に良いものとし、生涯スポーツのきっかけ、また健康維持・増進の基礎ともなる体育の授業を充実させるためのアイデアなどを、討議し共有していく必要がある。 熟慮し、討議した内容を、この熟議の時間の中で終わらせるのではなく、参加者それぞれが各地域でどう活かして行くかが大きな課題である。 まだまだ討議しきれない課題もあり、今後も参加者がそれぞれで考え課題解決に向けて行動を起こして行くこと、またこのような場を草の根活動のように広めていき、あらゆる場所で行われていく環境づくりが重要であると考えます。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	5 校
---------	-----

コーディネーター総数	9 名
------------	-----

◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・ 実際の体育活動の見学、学校との協議、指導案作成などの【事前準備】である。各学校、また学校でも各学年によって求められる授業内容が異なる点、使用できるボールの数、運動場の広さなどが異なる点などを考慮し、各学校や学年に応じた指導案の作成を行った。
指導案に関しては、運動が苦手な児童やその種目をはじめて実施する児童も楽しめるメニューである事、また小学校体育活動コーディネーターがいない時にも先生方が簡単に行えるメニューを念頭おき作成した。
- ・ 実際の【授業中の工夫】である。スムーズな進行をする為の先生との打ち合わせまた当日の出席者数や児童の理解度によりオーガナイズ(コート大きさやボールの数など)を工夫し、みんなが楽しめる工夫を行った。視覚からアプローチするデモンストレーションを積極的に活用し、コーチングの手法にも拘った。『全員の運動量の確保』と『自発的なアイデアや工夫を引き出す事を狙いとした。』

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ 事前に各学校との調整、協議などを行い、各学校または各学年の要望に沿った授業を行うことができた。
- ・ 「みんながわかって、できて、楽しい授業」を目指し、学校教職員との協議の上、作成した指導案、そして小学校体育活動コーディネーターのポイントをおさえた指導者、デモンストレーションなどによって、児童の参加意欲や運動量のアップ、また自発的なアイデアや工夫を引き出す事ができ、できない事にもチャレンジする姿勢が多く見ることができた。
- ・ この事業をきっかけに、課外活動であるクラブへの参加を決める児童が数名おり、生涯スポーツへのきっかけ作りにもなることができた。
- ・ 持病があり、サッカーやマラソンなどの授業を禁止されている児童がどうしてもサッカーの授業に出たいとの希望があり、特別にかかりつけの医師に相談の上、様子を観て参加するなどの事例もあり、児童のスポーツへの興味や参加意欲などに良い影響を与える事ができた。
- ・ 小学校体育活動コーディネーターは、各小学校で活動している地域のサッカークラブの指導者を派遣した。これまでは、教職員の方々とあまり接点の地域になかった地域クラブの指導者が、小学校体育活動コーディネーターとして、事前の打合せや会議、指導案作成や実際の授業での指導も含めて、様々な場面で接する機会があり、普段の体育授業の相談や、クラブに在籍する児童の情報交換など…新しい巣ネットワークを形成する事ができた。

〔課題〕

- ・ 指導者の確保が一番の課題である。各学校や学年で取り組みたい時期や内容が違うため、それに合わせた指導者の確保が困難である。また、日程的にも学校とクラブ、また、小学校体育活動コーディネーターの予定などの調整をより効率良く実施していけるように指導者の発掘と確保できるネットワークが必要であらう。
さらには、その指導者の実施種目の専門知識、指導ノウハウ、コミュニケーションスキルなど、より良い授業をしていく上でのレベルアップも同時に挙げられた課題である。
- ・ 全校生徒が多く、5クラス合同で実施する学校もあり、使用できる用具(特にボール)が不足しているのが現状であった。同時に限られた時間、限られたスペース、用具などで授業の質を上げていくためには、学校との事前打ち合わせ、指導案の作成、実施時間での先生との連携、小学校体育活動コーディネーターのレベルアップが課題である。
- ・ 学校の評価では、児童の参加意欲、運動量、技術指導など、様々な点において好評価を受けたが、まだ、サッカーのみの実施であり、更に種目を増やす事ができれば、児童にとって、学校にとって、地域にとって、良い影響を与える事ができると考えます。そのために、指導者の確保と、学校の調整をしていければと考えている。

本事業全体の成果と課題

【成果と課題】

〔成果〕

- ・ 地域クラブの指導者と学校とのより良い関係を構築することができた。そのことで、普段の体育授業における内容の相談や、クラブに在籍する児童の情報交換など、児童の成長における良い環境づくりができた事は成果の一つである。
- ・ 上野・西丘・南丘・少路・刀根山の地域において、我々が小学校体育活動コーディネーターのを派遣し、新しい公共の観点から、地域のクラブまた指導者が主体的に関わり、小学校を中心としたスポーツコミュニティを形成し、より良い環境を作りだすきっかけになれたのではないと思う。
- ・ クラブと学校／先生との今までとは違った新たなネットワークが生まれ、多種目のクラブが興味を始めてくれたことは、多種目の実施にむけた基盤づくりとなった。

〔課題〕

- ・ より良いスポーツコミュニティを形成していくために、地域の各スポーツ団体や指導者間のネットワークを更に大きく広げていく必要がある。
- ・ 小学校の施設を使用して幼稚園年代、保育園年代の未就学児のスポーツに親しむ環境づくりをしていく事もより良いスポーツコミュニティを形成していく上で必要な事であると考えます。
- ・ 近年、塾通いや共働きの増加や携帯電話などの普及による親子間や家庭間の交流が希薄になってきている。そのような課題を解決していく施策やアイデアを地域で考えいく事も課題の一つである。
- ・ 女子児童が今回のサッカーの授業で、サッカー自体や身体を動かすことへの興味は持つ児童は増えたが、女子児童がスポーツに親しむ場、生涯スポーツとしての受け皿となるスポーツクラブが少ない事も課題の一つである。
- ・ 情報をもっと広めていかなければならないということ、そして同じビジョンを持ち、共に協同していく団体がコミュニティを形成し、様々な地域課題を解決していく足がかりとして、新しい公共の担い手として成長していかなければならないということを感じた。その同じビジョンを伝えていくための施策、アイデア出し、それぞれの団体にとって良い環境を作り上げていく事が必要であり、大きな課題である。
- ・ 小学校体育の充実には「スポーツ離れ」「体力低下」している児童にとって、健康維持、健康増進、運動意欲の増進としても基盤となり、また、生涯スポーツへの大きなきっかけ作りとなる。
- ・ 小学校体育だけでなく、小学校を中心としたスポーツ振興をしていく上で、トップアスリートによるスポーツ教室、親子スポーツ教室、学校の先生向けスポーツ指導(体育)ポイント講習会、運動苦手なお父さんお母さん向けのスポーツ(遊び)指導ポイント講習会、未就学児対象の外遊びサークル…など、様々な取組を今後していくことが地域におけるスポーツコミュニティの形成を促進し、地域で同じビジョンを持ち、新しい公共の担い手となる団体が増え、更に大きな充実したコミュニティが確立されていくことになる。そのきっかけ作り、基盤作り、そして発展させていく事が我々の使命であり、地域の課題であると考えます。